

MACF礼拝説教要旨

2020.04.26

「罪ある人間の悲惨その2」

2:1 だから、すべて人を裁く者よ、弁解の余地はない。あなたは、他人を裁きながら、実は自分自身を罪に定めている。あなたも人を裁いて、同じことをしているからです。

2:2 神はこのようなことを行う者を正しくお裁きになると、わたしたちは知っています。

2:3 このようなことをする者を裁きながら、自分でも同じことをしている者よ、あなたは、神の裁きを逃れられると思うのですか。

2:4 あるいは、神の憐れみがあなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かな慈愛と寛容と忍耐とを軽んじるのですか。

2:5 あなたは、かたくなで心を改めようとせず、神の怒りを自分のために蓄えています。この怒りは、神が正しい裁きを行われる怒りの日に現れるでしょう。

+++++

1章でパウロが取り扱っていたのはイエス様のことも旧約聖書のこともあまり知らない異邦人の罪についてだと言われています。

この2章では宗教家たち、ある意味でパウロにとっては同胞たちに対する告発文のようになっています。

自分は、「神を知らないあの人たちとは違う」という意識を持っている人たちに対する言葉です。ということは、クリスチャンに対する言葉としても心に留める必要がある内容です。

1) すべて人を裁く者よ

「裁く」とは断罪することであり、

自分を裁判官に仕立てて、自分自身のことも、他人のことも白か黒か、良いか悪いか、右に行くべきか、左に行くべきかと「指図的な意識を強く持つこと」を意味しています。

実は、この作業は私たちの日常の中にしっかり入り込み「相手に対する価値判断」「物事についての価値判断」の基準として心の中に「自分こそ神と等しい裁判官だ」という意識がまとわりついているのです。

私たちはこの「裁き」を一日中発動し、それをやめることができません。だからこそ、腹を立てたり、憤ったり、文句を言ったりするのです。それは自分の中での「裁き」がもたらす後遺症です。

マタイによる福音書7章にイエス様は厳しい口調で

7:1 「人を裁くな。あなたがたも裁かれないようにするためである。

7:2 あなたがたは、自分の裁く裁きで裁かれ、自分の量る秤で量り与えられる。

7:3 あなたは、兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか。

7:4 兄弟に向かって、『あなたの目からおが屑を取らせてください』と、どうして言えようか。自分の目に丸太があるではないか。

7:5 偽善者よ、まず自分の目から丸太を取り除け。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目からおが屑を取り除くことができる。」と語っています。

新改訳清書では「さばいてはいけません。さばかれないためです。」となっていて原文に忠実です。

自分についてのレッテル貼りも、ある意味での「裁き」「評価」です。

人に対して自分に対しても「今、ここにいる私」だけの感覚で触れていければ良いのだと思います。自分はこういう過去があり、こういう実績があるから、すごいのだ、などと考えてそういう自分を見せようとするのは愚かしいことであり、それはきわめて自己中心的な自己判断の上に自分を置いていることになるでしょう。あまり安易な自己判断や自己裁定は危険です。相手に対する批判も、ある程度自由ではあっても、よくよく調べないと間違った批判になることが十分あり得ます。そして、人にレッテルを貼ると、そのレッテルが一人歩きをし始めて相手に対して取り返しのつかない事態を作ってしまうこともあります。ここではパウロは、異邦人を「無教養、迷信に取り憑かれています」として軽蔑している宗教者、あるいは知識人に対して、その批判をしているあなた自身も、同じことをしているのではないかと切り返しています。人の批判をしながら、自分でも同じことをしているとすれば、あなたの方こそ知識人、宗教者としてもプライドがあるわけだから、自粛し、反省し、悔い改めるべきではないのかとパウロは語るのです。

しかし、感謝なことに、これは明らかに違う、これは明らかに神の喜びではないという判断力も与えられていることは事実です。それを他者を脅かしたり、高慢にふるまう材料にしてはならないのです。

2) 神の憐みは悔い改めに導くためそれらは、むしろ、自分を悔い改めに導くための恵みとして理解せよ、とパウロは勧めるのです。自分は他の人よりも少し神様のこと、聖書のことを知っているというのであれば、それは、神があなたに悔い改めの人生に導くためだと考えれば良いのです。生意気に、知っているフリをし、あの人たちより神に近い存在だなどと威張ることをせず、神が教えてくれた真理に照らすと自分にはまだまだ足りない面があり、知らないことがあり、教えてもらい、助けてもらう必要があるなあ、学ぶべきことがたくさんあるなあという方向に向かうべきなのです。

神の憐れみがあなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かな慈愛と寛容と忍耐とを軽んじるのですか。

3) 神の慈愛・寛容・忍耐

私たちが生きていられるのは、神の慈愛と寛容と忍耐があればこそなのです。そのおかげで、罪ある、高慢な私のような者でも生かしていただいているのです。神の慈愛・寛容・忍耐は、私たちが真理に立ち戻るため、私たちが過ちを犯した時、素直にそれを認め、神のもとに立ち返るため、私たちが神に感謝し、礼拝をささげ、礼拝者として整えられるためなのです。

それでも、私たちはどこかに「クリスチャン」としての「優越感」を持ち、「そうでない人たち」への冷た

い視線をなかなか捨てることができません。
そういう微妙な「高慢さ」に気付けるかどうか。
そこに大きな宗教的偽善があることに気付けるかどうか。
主よ、わたしの頑なな心を砕き、赦しを願い、学ぶことを喜び、共に生きる姿勢を共有できますように。
この願いこそ、今日、私たちの中に必要なのです。

パウロはさらに厳しく論を進めていますが、今日のところは、ここまでにしておきましょう。
今朝の鍵の言葉はこれです。

さばいてはいけません。さばかれな
いためです。」

2:3 このようなことをする者を裁きながら、自分でも同じことをしている者よ、あなたは、神の裁きを逃れられると思うのですか。
2:4 あるいは、神の憐れみがあなただを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かな慈愛と寛容と忍耐とを軽んじるのですか。